

牛好きの詩人光太郎には ビフテキを題材にした詩が

作家・詩人などの文学忌には、植物の名が付いたものが数多い。太宰治の桜桃忌（六月十九日）、司馬遼太郎の菜の花忌（二月十二日）、正岡子規の糸瓜忌（九月十九日）などは有名だが、あまり知られていないものに次のような文学忌がある。

木蓮忌（四月二十日、内田百閒）、梶葉忌（五月十一日、梶山季之）、白桜忌（五月二十九日、与謝野晶子）、くちなし忌（八月二十四日、中野重治）などがすぐ浮かぶ。

四月二日は連翹忌。これは高村光太郎（こうたろう）の忌日である。

アトリエの庭に咲く連翹の花を愛したことから名づけられたもの。

詩人・彫刻家として活躍した光太郎、本名は光太郎みつたろうといい、筆砕雨たかむらさきのペンネームで作歌もしている。

光太郎は牛・牛肉が好きで「牛」や牛鍋屋の風景を詠った「米久の晚餐」などという有名な作品がある。

さらに、そのものズバリの「ビフテキの皿」なる詩まである。

「さても美しいビフテキの皿よ」と詠い出し、(略)「冴えたナイフですいと切り、銀のフォークでぐとさせば 薄桃いろに散る生血 ころろの奥の誰かがはしゃぎ出す」(略)「白と赤との階調にシュトラウスの毒毒しいクライマックス 見よ、見よ、皿に盛りたるヨハネの黒血を」

牛の品種

国内で売られている牛肉の種類は大きく分けて、和牛、乳用種、交雑種（乳牛に和牛を交配したもの）、外国種（肉専用種）の四種類があります。

また、和牛と呼ばれているものは、黒毛和種、褐毛和種、日本短角種、無角和種の四種類だけです。

この中で黒毛和種は和牛の九五%を占め、「有名銘柄」の牛肉は黒毛和種を肥育したものです。

(略)「ナイフ、フォークの並んで載ったさても美しいビフテキの皿よ」まで全三十一行の小編だが、光太郎がいかにステーキを好んでいたか想像できる作である。ぜひ全編を味わってほしい。

光太郎が牛を詠うとき、他の作品にまして力が入っているように感じるのはひいきめだろうか。

ちなみに妻・智恵子の忌日は十月五日で、彼女をモデルに光太郎が詠んだ詩からレモン忌といわれる。

ワンポイント知識